



学校データ

【学級数】

26学級

【児童生徒数】

631人

【地域コーディネーターの有無】

無

地域の誇り“長岡花火”を核にした「ふるさと大島学習」の充実

1 はじめに

“長岡花火”ブランドは、広く日本全体に知れ渡り、今や世界へと名を馳せている。その打ち上げ場所である信濃川河川敷(左岸)に、大島小学校区は接している。

この地域の誇りを教材化した「ふるさと大島学習」は、1年生から6年生までの6年間の学びを「長岡花火」を柱に据え、それに関連した「ひと・もの・こと」に関わりをもたせながら、子供たちの学びに広がりをもたせようとしている。

各学年の学習内容

学年	学習テーマと主な学習内容
1	はなび だいすき
2	大好き大島！ 町のすてきを見つけよう
3	すごいぞ！長岡花火
4	光り輝け 大島っ子の長岡花火 長岡のシンボル 長生橋
5	大好き！長岡 知ろう伝えようくらしと防災
6	平和のリレーランナーになろう

学年別 他教科との関連付け

学年	他教科との関連付け
1	・図工「花火の絵」(ちぎり絵とクレヨン)・道徳「まちのじまん」(郷土愛)
2	・国語「体験したことを報告しよう」
3	・社会「大好き私たちのまち」「むかしから伝わる行事」「長岡市を紹介しよう」
4	・社会「わたしたちの県とまちづくり」「昔から今へと続くまちづくり」 ・図工「大島っ子の長岡花火」(絵画・工作)
5	・社会「地域の産業」
6	・社会「戦争と人々の暮らし」・国語「ポスターセッション」

「ふるさと大島学習」の主となる学びは生活科・総合的な学習の時間だが、他教科との関連を図り、横断的に学習を進められるよう計画した。

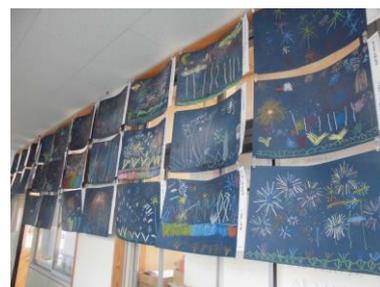
2 実際の取組

(1) R元年度1年生活科

～「はなび だいすき」～

7月下旬に長岡花火の打ち上げ場所となる信濃川の土手探検に行った。大花火大会を間近に控えた土手では、草が刈られ、看板や電燈の灯りなどの準備がされていた。普段の土手とは異なる雰囲気の中で、花火の打ち上げ場所を眺めながら『たいよう学年フェニックス大花火』を体いっぱい表現した。花火の打ち上げ場所という「もの」が近くだった事実を知り、長岡花火がより楽しみになった子供たちであった。

夏休み後の図工の学習では、長岡花火の様子を想起させてイメージを膨らませ、迫力や規模の大ききなどが伝わるように花火を絵で表現した。



教室に掲示した花火の絵

【児童の感想】

・わたしたちのまちは、すごいです。どうしてかということ、百まん人があつまる花火大会があるからです。フェニックスと三じゃく玉は、ことしもきれいでした。

(2) R元年度4年生

～「光り輝け 大島っ子の長岡花火」～

「長岡花火の魅力の秘密を探ろう」という学年共通テーマをきっかけに、一人一人が自分の追究課題を設定し、調べ活動に取り組んだ。図書資料やインターネットを活用して調べ、花火の色や形を出すための工夫や長岡花火の歴史等、新しい発見や気付きが見られた。花火師の嘉瀬さんの講話からは、花火の構造や様々な工夫、花火作りに携わる人の「多くの人に楽しんでもらいたい」という長岡花火に込めた思いを教えていただき、長岡花火についての学びを深めた。また、花火作りの作業に挑戦したり、本物の花火の筒を見たりした。「ひと」との出会いは思いを知る貴重な機会となった。まとめに、学んだことや長岡花火に対する願いを一人一人が新聞で表現した。

図工の学習では「花火玉作り」に挑戦した。花火玉は、花火の弾ける様子や色を変えながら広がる様子を表している。自分なりのオリジナルデザインの花火を作ろうと、色や竹ひごのさし方を工夫した。制作物は、長岡まつりの時期に「アオーレ長岡」展示スペースに、秋に校内音楽会で展示し、学習の成果を披露した。

3 成果と課題

(1) 成果と育成された資質・能力

- ①地域に出かけて見聞きし、触れ合ってきた経験が生かされた。地域の良さを

[児童の感想]

・花火の色は、薬剤を組み合わせで作っていると分かりました。花火は暑い中、花火師さんが組み合わせを考えたり作業したりして作っているのだから、本物の花火や音を他の国や県外の人にもたくさん見てほしいです。

見つけたり再確認したりしたことで、

ふるさと大島を誇りに思い、よさを言える子が増えてきた。

- ②生活科・総合的な学習と、他教科との横断的な学習がなされ、児童の文章表現力、絵画・立体作品への表現力及び表現への意欲が高まった。
- ③異学年への発表や紹介、展示が活発に行われ、他学年への関心が高まった。

対象	項目	肯定的評価
児童	生活科や総合的な学習の時間を通して、大島や長岡の良さや、自慢できるところを見つけることができましたか。	91%
保護者	お子さんは、大島地域や長岡の良さ・自慢できるところが言えますか。	67%
職員	子供たちが主体的に問題解決にむかう「ふるさと大島学習」に努めてきたか。	84%

(2) 課題

- ①この活動によって子供たちがふるさと大島の良さを見つけることができた姿を、保護者や地域に発信していく活動を位置付ける。
- ②子供の学びをつなげ6年間で積み上げていく計画を整備して、ふるさと大島学習に広がりや深まりをもたせていく。

4 おわりに

子供たちが自らの目でふるさとの自然や歴史、文化等を学ぶことを通して、郷土を愛する心を育むことや郷土への貢献意欲を高めることが求められている。「ふるさと大島学習」での6年間の学びを通じて、魅力のある地域素材が身近にあることや、支えてくださる方々が大勢いることに子供たちが気付き、ふるさとに誇りと愛着をもたせたい。学びの土台・暮らしの土台がふるさとにあることを安心に感じ、自己肯定感の高まりにつなげる大島っ子に育ててほしいと願っている。